

# 2024 年度 ベトナム研修 報告書

医療科学部 放射線技術学科 3 回生 氏名 小森 翔太

## 〈 研修概要 〉

2025 年 2 月 25 日から 3 月 6 日までベトナム研修に参加しました。ホーチミン市のチョーライ病院では臨床実習を受け、フエ市のフエ医科薬科大学では診療放射線技術学専攻の学生と交流し、附属病院で研修を受けました。

## 〈 研修参加の目的 〉

ベトナム研修への参加目的は、診療放射線技師に必要な臨床的知識を深めること、異文化を学び対話力を向上させることです。ベトナムの病院での検査手順や装置の操作方法、日本との患者接遇の違いを学び、臨床実習や将来の業務に活かしたいと考えました。また、外国人患者の診療では文化や価値観の違いを理解して対応する必要があります。ベトナムでの生活やフエ医科薬科大学の学生との交流から異文化を学び、対話力を高められれば、広い視野で物事を考える力を身につけられると思います、本研修に参加しました。

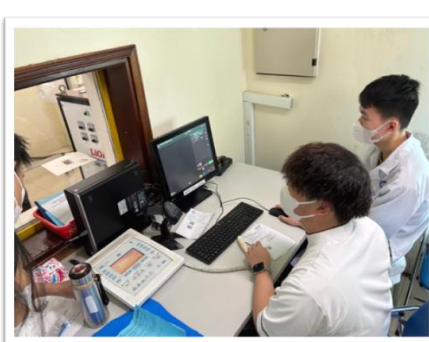
## 〈 研修で学んだこと 〉

### 1. 病院実習

チョーライ病院は高度医療を担う 5 つの基幹病院のひとつであり、検査数は日本の都市部の大学病院の 10 倍にも上ります（一般撮影 1800 件/日、CT 600 件/日、MRI 180 件/日）。そのため、可能な限り速く、診断に十分な画像を撮影するために効率的に検査が実施されていました。一方で、あまりにも検査数が多いために照射野を調整する余裕もなく、被曝線量が最適化されていない点が気になりましたが、多忙な中でも思いやりを持って患者に接する姿勢には感銘を受けました。一人ひとりの患者さんに十分な時間をかけて対応でき、被曝線量も最適化できる日本の医療環境が非常に恵まれていることを学びました。また、臨床では丁寧な患者接遇や正確な技術に加え、柔軟な対応力が必要であることを実感しました。この経験を日本での学びに活かし、常に患者さんに寄り添いながらも効率と質を両立できる診療放射線技師を目指したいです。



▲チョーライ病院



▲フエ医科薬科大学附属病院



## 2. 国際交流

本研修中はベトナムの方々と積極的にコミュニケーションをとりました。初めは英語に自信が持てず不安を感じていましたが、簡単な英語やボディランゲージで十分にコミュニケーションがとれることを学びました。先方の学生とのグループディスカッションでは、言葉の壁を感じながらも自分の考えを伝え、相手の意見を理解することができました。また、日常生活における文化や習慣の違いも経験しました。交通事情は日本とは大きく異なり、信号でも車両が止まらないことに驚きました。先方の学生に「一定の速度で歩けばバイクが避けてくれる」と教わり道路を横断できました。ベトナムでは歩行者がバイクに合わせる事が一般的であり、郷に入っては郷に従う大切さを学び、異文化に触れる重要性を感じました。異なる文化的背景を持つ患者さんに安心していただくためには異なる価値観を尊重し、配慮することが大切だと学びました。また、診療放射線技師として信頼していただくためには、心の距離感を大切にされた柔軟な対応力が必要だと感じました。私は、他者を尊重し、高いコミュニケーション力を持った診療放射線技師を目指しています。今後は海外研修や国際学会への参加を通し、異文化への理解を深めることが必要だと考えています。この研修での経験を今後のキャリア選択に活かしたいです。



▲観光の様子



▲交流の様子

## 3. 交流プログラム

フエ医科薬科大学での交流プログラムでは、人生で初めて大人数の前でプレゼンテーションをしました。京都の文化や大学について伝えるために数カ月に渡って資料作りや原稿作成を進め、少しでも緊張を和らげるために何度も本番を想定して練習しました。当日の発表前は緊張しましたが、練習成果を信じて本番に臨みました。聴衆がうなずきながら真剣に聞いている姿から、自分の言葉が相手に伝わっていることを感じ、努力が結実した充実感と達成感で満たされました。プレゼンテーション後は聴衆から質問や感謝の言葉をいただきました。自分の発表が聴衆を惹きつけ、京都の文化や本学について理解を深めてもらえたことに喜びを感じました。この経験から、

入念な準備の重要性、準備によって緊張を自信に変えられることを学びました。今後は何事にも積極的に挑戦し、さらに成長したいと強く感じました。



▲プレゼンテーション



▲よさこい

#### 〈まとめ〉

本研修への参加目的は達成できたと感じています。異なる医療環境や文化に触れ、多様な価値観を尊重する姿勢を学びました。日本とは異なるベトナムの医療制度を目の当たりにし、それぞれの環境に応じた医療の在り方を考えるきっかけになりました。また、異国での生活や実習によって人として成長できたことを実感しています。先方の学生との交流で対話力も身につけることができました。この研修から、医療に対して多角的な視点と広い視野を持つ重要性を再認識しました。本研修での貴重な経験と出会いに感謝の気持ちを忘れず、日々精進します。

#### 〈謝辞〉

ご多忙中、病院実習を受け入れてくださったチョーライ病院、フエ医科薬科大学附属病院の方々に深く感謝申し上げます。また、引率してくださった玉木学長、霜村先生、石田先生、本谷先生にも心から感謝申し上げます。最後に、本研修と一緒に参加した11名の仲間、研修の支援をしてくれた両親にも感謝いたします。